

玉川大学における教職必修科目〈体育〉の授業評価（第6報）

—コロナ対策を実施しながらの実技科目の授業評価—

川崎登志喜

玉川学園・玉川大学

健康・スポーツ科学研究紀要

第21号

■研究報告■

玉川大学における教職必修科目〈体育〉の授業評価（第6報）

—コロナ対策を実施しながらの実技科目の授業評価—

川崎登志喜*

要約

本研究はコロナ対策を講じながら対面授業を中心に実施した「体育」の授業評価を前年度（2019年度）と比較し、コロナ禍における授業のやり方、受講学生の参加への取り組みを明らかにすることであった。分析の結果、以下のことが明らかとなった。

- 1) 「常に出席するように心がけた」は2019年度：4.69、2020年度4.92と有意差が0.1%水準で有意差が認められた。
- 2) 「どんな授業か楽しみにしていた」2019年度3.40、2020年度3.89と有意に得点が高く、受講前に授業を楽しみにしている学生が増加していた。
- 3) 「とても充実した気持ちだ」は2019年度3.74、2020年度4.14と授業終了後に充実感を味わっている学生が多い。
- 4) 「各学生に公正な態度であった」は2019年度4.14から2020年度4.62と全ての項目で評価得点が高くなった。
- 5) 「まったく運動しない」学生が2019年度15.4%であったのに対し、2020年度は42.6%と運動機会を奪ってしまったことが明らかとなった。

キーワード：コロナ禍、授業評価、対面授業

1. はじめに

筆者は2006年から5年間の本学必修科目「体育Ⅱ」についての授業評価を様々な観点から分析してきた。¹⁾²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾ 2012年度より本学カリキュラム改定により、「体育Ⅱ」は「体育」と科目名称を変更し、全学必修科目から教職必修科目となり、教育学部のみ学部必修科目として授業を展開してきた。

2020年1月、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の中国での発症、その後、世界規模での拡大が懸念され、我が国も3月から小・中・高等学校の全国的な休講措置をはじめ、本学も4月から新学期をすべてオンライン授業へと大きく変化した。

全学必修科目である「健康教育」も対面授業を一度も実施することなく、本学オンライン学習システム「Blackboard@Tamagawa」（以下、Bbと表記）を用いた遠隔授業のみで授

教職必修科目「体育」は、秋学期に開催される「玉川学園・玉川大学 体育祭」にマスゲームを中心とした体操を発表することを最終課題として展開され、秋学期開始前の土曜日を中心とした集中授業で授業を実施している。今年度、コロナ禍において対面授業を実施するか判断を迫られたが、幼稚園から高等学校のK-12の各デイビジョンが対面授業を実施していることもあり、一家族一名の観戦という条件をはじめ様々な感染対策を講じて、授業を展開した。（鈴木淳也の報告を参考にされたい）

そこで本報告は、コロナ対策を講じながら対面授業を中心に実施した「体育」の授業評価を前年度（2019年度）と比較し、コロナ禍における授業のやり方、受講学生の参加への取り組みを明らかにすることを目的としている。

*玉川大学

2. 方法

(1) 調査対象者

2020年度 「体育」受講者 男子 273名、
女子 305名 計 579名

2019年度 「体育」受講者 男子 254名、
女子 334名 計 588名

(2) 調査方法

2020年度：Bbを用いたアンケート調査。

2019年度：最終授業終了時、質問紙を配布し回収。

(3) 調査期間

2020年度：2020年10月12日～11月1日

2019年度：2019年10月14日～10月21日

(4) 回収率

2020年度：男子 140/272 (51.5%) 女子
190/305(62.3%) 計 57.0%

2019年度：男子 223/254 (87.8%) 女子
317/334(94.9%) 計 92.0%

2019年度は出席カード提出に合わせて回収していたため92.0%の回収率であったが、2020年度はBbによる回答であり、出席とは関連付けなかったため57.0%の回収率にとどまった。

(5) 質問項目

① 学生自身の授業態度(5段階評価)

- ア) この授業に真剣に取り組んだ
- イ) 常に出席するように心がけた
- ウ) 感動や喜びを体験することができた。

② 受講以前の期待度(5段階評価)

- ア) 入学前から体育祭があることを知っていた
- イ) どんな授業か楽しみにしていた
- ウ) イヤで仕方なかった

③ 受講後の満足度(5段階評価)

- ア) とても充実した気持ちだ
- イ) イヤで仕方なかったのに、ホッとしている
- ウ) もう少し難しいものにチャレンジしたかった

④ 体育祭の全体評価(5点満点)

⑤ 担当教員への評価(5段階評価)

- ア) 熱意を持って指導していた
- イ) 説明の仕方など明確で理解できた
- ウ) 各学生に公正な態度であった

3. 調査結果

(1) 調査対象者の概要

表1は所属学部を年度別にまとめたものであ

る。調査対象者の所属の割合はほぼ同様であったが、芸術学部所属の学生が2020年度は少ないという結果であった。

また、男女比は2019年度：男子 223名 (41.3%) 女子 317名(58.7%)2020年度：男子 140名(42.4%) 女子 190名(57.6%)とほぼ同様であった。

(2) 学生自身の受講態度(表2参照)

各質問項目の5段階評価に得点を与え、平均得点を算出し、t検定を施した。(表2参照)「真剣に取り組んだ」「感動や喜びを体験することができた」の2項目には有意差は認められなかったが、「常に出席するように心がけた」は2019年度：4.69、2020年度4.92と有意差が0.1%水準で有意差が認められた。どちらも4.5を超える高得点であるが、2020年度はほぼ5点に近く、受講生の授業に対する姿勢が見て取れよう。

(3) 受講以前の期待度(表3参照)

「入学前から体育祭があることを知っていた」学生は2019年度3.61、2020年度3.82と4点を超えず、入学前の認知度はそれほど高くない。「どんな授業か楽しみにしていた」2019年度3.40、2020年度3.89と有意に得点が高く、受講前に授業を楽しみにしている学生が増加している。「イヤで仕方なかった」2019年度2.50から2020年度は2.07と得点が有意に減少した。「楽しみ」の裏返しであるが、対面授業のなかった春学期から初めての対面授業である「体育」を楽しみにしていたことが明らかとなった。

(4) 受講後の満足度(表4参照)

全ての項目で年度による有意差(0.1%水準)が認められた。「とても充実した気持ちだ」は2019年度3.74、2020年度4.14と授業終了後に充実感を味わっている学生が多いことが明らかとなった。また、「イヤで仕方なかったのに、ホッとしている」は2019年度2.48から2020年度1.90と得点が下がった。「もう少し難しいものにチャレンジしたかった」では2019年度2.75に対して2020年度2.50とマスの難易度に対する評価が下がり、Bbとのハイブリッドで授業を展開したため2019年度より2020年度の実

技回数減少の影響が出ているのではないかと推察された。

(5) 体育祭の全体評価(表 5 参照)

授業に最終発表の場である「体育祭」の全体評価を5点満点で回答を得た平均得点は2019年度3.76、2020年度3.79と有意差は認められなかった。2019年度は雨天延期が続き体育祭は中止になり、2020年度も順延が続き、観客数を制限や競技種目を中止するなど従来通りの開催とならなかったことも平均得点が4点を下回った原因ではないかと推察される。

(6) 担当教員への評価(表 6 参照)

全ての質問項目において有意差(0.1%水準)が認められた。「熱意を持って指導していた」2019年度4.39から2020年度4.69。「説明の仕方など明確で理解できた」2019年度4.03から4.40。「各学生に公正な態度であった」2019年度4.14から2020年度4.62と全ての項目で評価得点が高くなった。

高い評価に満足することなく、来年度以降も取り組んでいきたいところである。

(7) 運動頻度について(表 7, 8 参照)

コロナ禍においての学生の運動実施状況について最後にまとめる。(表7参照)

運動頻度「週3日以上」の定期的な運動習慣のある学生は2019年度29.4%であったのに対して2020年度は0.0%と全くいなかったのである。

「まったく運動しない」学生が2019年度15.4%であったのに対し、2020年度は42.6%と運動機会を奪ってしまったことが明らかとなった。

そこで、クラブ・サークルへの所属についてまとめたものが表8である。2019年度体育会(運動部活動)に所属している21.9%から2020年度18.2%と加入率が減少し、運動系サークル活動に所属していると回答した学生も2019年度24.3%から2020年度7.6%と加入率が激減している。文化会及び文化系サークルを含め、いずれにも属していない学生が2019年度34.6%から2020年度67.0%と倍増していることも明らかとなった。2020年度入学生は入学式も中止となり、体育会、文化会、サークル等の新入生加入活動の実

施されなかった影響が大きかったことが明らかとなった。学生にとって体育会・サークル等を含めた貴重な運動機会を今後どのように保障してあげるか、機会の提供を検討する必要があるだろう。

4. 参考文献

- 1)川崎登志喜(2006), 本学1年生必修<体育I>に関する授業評価—玉川学園の全学園体育祭を学生はどのように評価しているのか—, 玉川学園・玉川大学体育・スポーツ科学研究紀要, 第7号.
- 2)川崎登志喜(2007), 玉川大学における一年必修<体育II>の授業評価(第2報)—記名・無記名及び性別による授業評価の比較—, 玉川学園・玉川大学体育・スポーツ科学研究紀要, 第8号.
- 3)川崎登志喜(2008), 玉川大学における一年必修<体育II>の授業評価(第3報)—3年間の年次比較と出身別による授業評価の比較—, 玉川学園・玉川大学体育・スポーツ科学研究紀要, 第9号.
- 4)川崎登志喜(2009), 玉川大学における一年必修<体育II>の授業評価(第4報)—4年間の年次変化と出身別による授業評価の比較—, 玉川学園・玉川大学体育・スポーツ科学研究紀要, 第10号.
- 5)川崎登志喜(2010), 玉川大学における一年必修<体育II>の授業評価—5年間の年次変化と授業評価からみた体育祭—, 玉川学園・玉川大学体育・スポーツ科学研究紀要, 第11号.

表1 調査対象の概要

		学部					合計
		教育学部	芸術学部	工学部	農学部	文学部	
年 2019	人数	341	35	41	25	98	540
	%	63.1%	6.5%	7.6%	4.6%	18.1%	100.0%
度 2020	人数	219	9	24	24	54	330
	%	66.4%	2.7%	7.3%	7.3%	16.4%	100.0%
合計	人数	560	44	65	49	152	870
	%	64.4%	5.1%	7.5%	5.6%	17.5%	100.0%

表2 学生自身の授業 態度

	年度	人数	平均値	標準偏差	有意差
真剣に取り組んだ。	2019	540	4.59	.674	n. s.
	2020	330	4.65	.531	
常に出席するように心がけた。	2019	539	4.69	.676	***
	2020	327	4.92	.379	
感動や喜びを体験することができた。	2019	539	4.12	1.026	n. s.
	2020	328	4.13	.778	

*** : P<0.001

表3 受講以前の期待度

	年度	度数	平均値	標準偏差	有意差
入学前から体育祭があることを知っていた。	2019	540	3.61	1.580	n. s.
	2020	330	3.82	1.463	
どんな授業か楽しみにしていた。	2019	540	3.40	1.192	***
	2020	330	3.89	.974	
イヤで仕方なかった。	2019	539	2.50	1.240	***
	2020	330	2.07	.958	

表4 受講後の満足度

	年度	度数	平均値	標準偏差	有意差
とても充実した気持ちだ。	2019	536	3.74	1.148	***
	2020	329	4.14	.772	
イヤで仕方がなかったので、ホッとしている。	2019	532	2.48	1.243	***
	2020	329	1.90	.888	
もう少し難しいものにチャレンジしたかった。	2019	534	2.75	1.232	**
	2020	327	2.50	1.079	

表5 体育祭の全体評価

	年度	度数	平均値	標準偏差	有意差
体育祭の全体的評価	2019	529	3.76	1.021	n. s.
	2020	328	3.79	.836	

表6 担当教員への評価

	年度	度数	平均値	標準偏差	有意差
熱意を持って指導していた。	2019	533	4.39	.837	***
	2020	330	4.69	.554	
説明の仕方など明確で理解できた。	2019	533	4.03	1.034	***
	2020	326	4.40	.741	
各学生に公正な態度であった。	2019	533	4.14	.992	***
	2020	329	4.62	.706	

表7 運動頻度（年度別・性別）

現在、運動する頻度はどれくらいですか。

性別			週に3日以上	週に1~2日	月に1~3日	年に1日以上	全くしない	合計
男 性	2019	人数	67	68	42	5	29	211
		%	31.8%	32.2%	19.9%	2.4%	13.7%	100.0%
	2020	人数	0	38	28	2	72	140
		%	0.0%	27.1%	20.0%	1.4%	51.4%	100.0%
	合計	人数	67	106	70	7	101	351
		%	19.1%	30.2%	19.9%	2.0%	28.8%	100.0%
女 性	2019	人数	84	75	78	16	50	303
		%	27.7%	24.8%	25.7%	5.3%	16.5%	100.0%
	2020	人数	0	52	59	10	68	189
		%	0.0%	27.5%	31.2%	5.3%	36.0%	100.0%
	合計	人数	84	127	137	26	118	492
		%	17.1%	25.8%	27.8%	5.3%	24.0%	100.0%
合 計	2019	人数	151	143	120	21	79	514
		%	29.4%	27.8%	23.3%	4.1%	15.4%	100.0%
	2020	人数	0	90	87	12	140	329
		%	0.0%	27.4%	26.4%	3.6%	42.6%	100.0%
	合計	人数	151	233	207	33	219	843
		%	17.9%	27.6%	24.6%	3.9%	26.0%	100.0%

P<0.001

表8 所属クラブ・サークル（年度・性別）

あなたは大学のどんなクラブ・サークルに参加していますか。

性別			体育会	運動系サークル	文化会	文化系サークル	所属なし	無回答	合計
男 性	2019	人数	56	46	9	18	76	18	223
		%	25.1%	20.6%	4.0%	8.1%	34.1%	8.1%	100.0%
	2020	人数	30	13	6	4	85	2	140
		%	21.4%	9.3%	4.3%	2.9%	60.7%	1.4%	100.0%
	合計	人数	86	59	15	22	161	20	363
		%	23.7%	16.3%	4.1%	6.1%	44.4%	5.5%	100.0%
女 性	2019	人数	62	85	28	23	111	8	317
		%	19.6%	26.8%	8.8%	7.3%	35.0%	2.5%	100.0%
	2020	人数	30	12	6	5	136	1	190
		%	15.8%	6.3%	3.2%	2.6%	71.6%	0.5%	100.0%
	合計	人数	92	97	34	28	247	9	507
		%	18.1%	19.1%	6.7%	5.5%	48.7%	1.8%	100.0%
合 計	2019	度数	118	131	37	41	187	26	540
		年度の %	21.9%	24.3%	6.9%	7.6%	34.6%	4.8%	100.0%
	2020	度数	60	25	12	9	221	3	330
		年度の %	18.2%	7.6%	3.6%	2.7%	67.0%	0.9%	100.0%
	合計	度数	178	156	49	50	408	29	870
		年度の %	20.5%	17.9%	5.6%	5.7%	46.9%	3.3%	100.0%

P<0.001